

中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	① ア		各2×4
	② エ		
	③ ウ		
	④ ア		
問二	a とぼ	語として採点する。	各2×4
	b おちい		
	c すす		
	d しさ		
問三	A ウ		各3×2
	B オ		
問四	神もしくは自然は		4
問五	「読書における濫読」と「恋愛」が、先に行く者が戒めても後に来る者はそれを守らず、同じ誤謬を繰り返しがちであるけれども、そこから自分で教訓を学び取り、飛躍的な発展の契機とすることもできるという点。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
問六	自分の専門に関しての読書しかせず、過去や世界全体の生活や思想を正しく見通せない一面的な人間。(46字)	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	7
問七	多読 多くの本を読む読書の仕方。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×3
	濫読 何等の方向も目的もなく、多くの本を濫りに読む読書の仕方。		
	博読 自分の専門を有し、自分の専門と一般的教養とを関連付けて、多くの本を読む読書の仕方。		
問八	私は、生徒が将来「博読」を実践し、自分の専門を社会や人生に役立てることができるようにするために、まずは今までに読んだことのない作家やジャンルに広く触れさせるようにしたいと思います。そのために、国語科の授業では、ビブリオバトルをさせようと思います。 生徒たちは、読書習慣は身に付けたものの、読んでいる本は、同じ作家の作品ばかりであったり、同じようなジャンルばかりであったり、偏りがみられます。そこで、ビブリオバトルを行うことによって、これまでに読んだことのない作家やジャンルの本と出会うことができ、本を選ぶ際の視野を広げることができると思います。また、自分がそれまで知らなかった作家やジャンルの本の面白さや良さなどについて、友人の言葉で語られることによって、「読んでみたい」という興味・関心を喚起することができると思います。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	20

☐

75

中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
問一	紀貫之			3
問二	記号	b	記号と説明がともに合っているものだけを正答とする。	4
	説明	完了の「り」の連体形		
問三	ひさかたの・あらかねの・ちはやぶる		順序は問わない。	各2×3
問四	e	あたわず	ここをもって もよい。	各3×2
	g	ここをもちて		
問五	エ			3
問六	和歌より宜しきは莫し			4
問七	生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける			5
問八	共通点	素戔鳴尊が三十一文字の形式の始まりであるという点。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各6×2
	相違点	文章Aでは、天地が開け始まった時から和歌はよまれていたと述べているが、文章Bでは、素戔鳴尊よりも前に和歌はよまれていなかったと述べている点。		
問九	神水をこぼした事以上の過失はあるだろうか、いやない		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	8
問十	敬語	敬意の対象		各2×2
	せ 給ひ	鳥羽法皇 鳥羽法皇		
問十一	h	エ		各2×2
	i	イ		
問十二	御衣が無くなったことの嫌疑を受けて北野天満宮にこもった小大進が、讒言により左遷された菅原道真の辛さを和歌に詠んだことで、天神が鳥羽法皇の夢に現れてお告げをし、それによって嫌疑が晴れたように、和歌には神仏の心を動かす力があるということ。(117字)		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	12
問十三	ア	四		各2×2
	イ	五		

三

75

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	(1) 「言葉による見方・考え方を働かせ」とは 対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
	(1) 国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けることにつながるといえる理由 言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習の対象としているから。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5
	(2) [知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を別々に分けて育成したり、[知識及び技能]を習得してから[思考力、判断力、表現力等]を身に付けるといった順序性をもって育成したりするのではなく、言語活動を通して、これらの内容を関連させて指導し、資質・能力を育成すること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5
問二	(1) 私は、自転車のペダルを踏んでいる子供が「まっすぐ？」と叫んだ様子について、倒置法を使って表現しているところが作者の工夫だと思う。このような表現の仕方をするによって、子供の「まっすぐ？」という言葉がより強調される効果があり、作者が、のぼり坂であっても自転車から降りることなく、ペダルを踏んでいる幼い子供の一生懸命さを伝えようとしているのだと思う。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	10
	(2) ・短歌を選び終えた段階で、生徒にペアを組ませ、「なぜその短歌を選んだのか。」「どの表現の仕方が気になったのか。」「なぜ作者はそのような表現の仕方をしたのか。(作者の目的や意図)」「その表現の仕方からどのような印象を受けたのか。(表現の効果)」などについて対話をさせることが有効であると考え。なぜなら、対話を通して、ペアとなった生徒と一緒に短歌を鑑賞することになるため、短歌に用いられたいろいろな表現の仕方に目を向けることにつながったり、その表現の仕方に込められたものを読み味わう幅が広がったりすると考えるからである。 ・作者の目的や意図、表現の効果を考えさせるためには、短歌に使われている言葉と似た意味の言葉(類義語)や、逆の意味の言葉(対義語)を入れてみて、その意味や効果の違いを比較してみることが有効であると考え。なぜなら、比較する対象があることで、その言葉の意味や効果の違いを捉えることが容易になり、作者が何を表し、読み手に伝えたかったのかを考えることができるようになるからである。 ・完成のモデルとなる鑑賞文と生徒自身の書いた鑑賞文を比較して読ませ、「着目した表現の抜き出し」「その表現の意味や効果」「作者の目的や意図」が書かれている部分をそれぞれ色分けしてマーカーでチェックさせることによって、自分の書けていない部分を自覚させ、その部分についてもう一度考えさせることが有効であると考え。なぜなら、モデルとなる鑑賞文を読むことによって、作者の目的や意図、表現の効果などをどのように書けばよいか分かり、生徒自身の手で鑑賞文を推敲し、完成させることができると考えるからである。	2つ書かれていればよい。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	各 10 × 2
目			50